

平成26年6月

佛乗寺檀信徒の皆さまへ

佛乗寺 住職 笠原 建道
講頭 廣田 正至

梅雨入りが宣言されたとたんに、大雨が続きます。二月の大雪の時もそうでした。極端な気候の変化に途惑うより、またか、との思いをしております。

そのような時節ではございますが、檀信徒の皆さまにはお元気でご精進のこととお慶び申し上げます。

これからしばらくのあいだ続く、高温多湿の気候は、食べ物にカビがつきやすくなります。楽しみにしていたお饅頭にカビを生やし、泣き泣き処分をした経験はどなたもおありでしょう。

カビといえば、濁世に身をおく私たちの心にもカビが付くようです。心の中に付くものですから、わかりにくいものです。外からも見えません。気づいた時には心の中がカビだらけになっており、それを取り除くためにはより多くの時間と労力が必要になる場合も少なくありません。

ただ、心にカビが付いたとあって、饅頭のように泣き泣き処分することは出来ません。そこでどのように対処するか、それを教えるのが日蓮大聖人様の仏法です。

大聖人様の教えでは、カビを煩惱と置き換えて考えることが出来ます。カビが付くのは生きている証拠です。生きていること、それが最高に貴いことなのです。ですからカビが付いても苦と感じることはないのです。苦と感じなければならぬのは、カビが付いてもしかたがない、梅雨なのだから、という諦めの心です。

そこで日蓮大聖人様は教えて下さいます。煩惱を取り除く必要などないのです。煩惱があるから覚りもあるのです、と。『当体義抄』では次のように述べられております。

正直に方便を捨て但法華経を信じ、南無妙法蓮華経と唱ふる人は、煩惱・業・苦の三道、法身・般若・解脱の三徳と転じて、三観・三諦即一心に顕はれ、其の人の所住の処は常寂光土なり。(御書・一六九頁)

御文を現代語にして拝しますと、次のようになると思います。

「素直な心で仏の真実の教えである法華経を信じて、南無妙法蓮華経と唱える人は、三道という、多くの煩惱や、過去世の悪業や、その結果である苦しみが、そのまま仏が得た真理となり(法身)、その真理を覚る智慧となり(般若)、先の二種が一つとなって生死の苦しみから解き放たれた状態になる(解脱)という三徳に転換します。このことは、彼の天台大師が修行の目的とした三観・三諦、つまり一念三千という仏の覚りの功德が、私たち凡夫の一心に顕われることなのです。そうであれば、その人が住むところは仏様の住むところとなるのです」

このように、日蓮正宗では煩惱を嫌うのではなく、煩惱を覚りに転換することを目的とします。その転換の方法は南無妙法蓮華経と唱え折伏をすることです。

食べ物にカビが付くと困りますが、抗生物質のペニシリンはカビから生まれたと聞きます。そうであれば一切に無駄なものはない、という大聖人様の教えがさらに心におさまります。檀信徒の皆さまには、いよいよお元気で精進されますよう御祈念申し上げます。

以上